III. 刊行報告書抄録

第108集　水入遺跡

本書は、平成10(1998)～11(1999)年度に豊田市南部で行なわれた約67,000㎡におよぶ調査面積の発掘調査報告書である。水入遺跡は矢作川西岸の低～中位段丘に立地し、後期旧石器時代～江戸時代前半のさまざまな時期にわたる遺構・遺物が展開する。

後期旧石器時代　遺跡北東部ではナイフ形石器などの後期旧石器が多数出土した(第2章)。

縄文時代草創期～早期　遺跡中央部の谷地形南側では無遺物の焼土坑が多数ある。炭素年代測定法によって約9000年前という年代値が得られた。(第3章)

縄文時代中期後葉～後期初頭　谷地形の北側で2～3棟の竪穴建物からなる集落が展開し、南側では土坑群が展開する。(第3章)

縄文時代末期　遺跡各地点で土器棺墓がみられる。(第3章)

弥生時代末期　遺跡南部で竪穴建物からなる集落が展開する。時期は川原上層III式(廻間Ⅰ式前半併行期)である。(第4章)

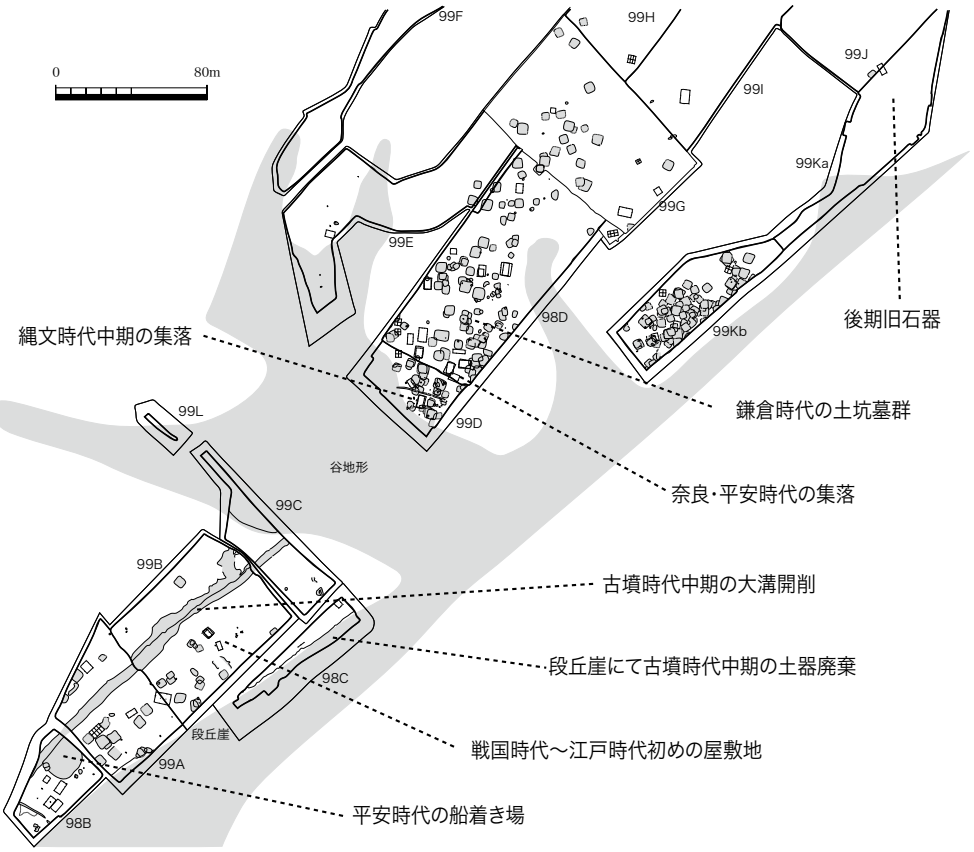
古墳時代中期　遺跡南部に灌漑目的と推測される全長220m以上の大溝が開削される。石製模造品を使った祭祀が行なわれた。また矢作川に面する段丘崖では多数の土師器廃棄があった(松河戸Ⅱ式併行期)。大溝機能停止後は掘立柱建物の集落が展開し、猿投窯初期段階の須恵器が多数廃棄される。三河地域で初めての軟質韓式系土器出土。(第5章)

奈良時代～平安時代　7世紀前半以降竪穴建物中心の集落が遺跡北部も含めて拡大傾向にある。それは8世紀半ばまで続き、8世紀末～9世紀初頭には低地に向かって集落域の移動がみられる。(第6章)

鎌倉時代　約300基にのぼる土坑墓が遺跡全体に展開する。土坑墓は青磁や刀子などが副葬された方形のものと灰釉系陶器が副葬されるか副葬品のない円形のものとに大別される。(第7章)

戦国時代　16世紀には古墳時代中期の大溝上部を再掘削・拡張して運河として再生する。運河と矢作川の間には直径20㎝以上の柱からなる掘立柱建物が配置され、川湊の様相を呈する。(第8章)

江戸時代前半　矢作川の洪水が頻繁になり、集落域としての利用はここで終る。(第9章)　(永井邦仁)



奈良～平安時代の主要遺構配置図

報告書抄録

ふりがな	みずいりいせき
書名	水入遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第108集
編著者名	永井邦仁・川井啓介・川添和暁・鬼頭　剛・鈴木正貴・森　勇一・藤根　久・今村美智子・植田弥生・佐々木由香・松葉礼子・宮塚義人
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
みずいりいせき 水入遺跡	あいちけんとよたしとがりちょう 愛知県豊田市渡刈町 おおやしき・しもかすめ 大屋敷・下糟目	23211	63475	35度 1分 40秒	137度 18分 20秒	1998.7.7 ～ 2000.3.30	67,850	第二東海自動車道豊田東I.C.建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
水入遺跡	集落	後期旧石器時代	なし	ナイフ形石器・剥片	
		縄文時代 草創期～早期	焼土坑群	なし	放射性炭素年代測定による時期判断
		縄文時代中期	竪穴建物・土坑など	土器・石器	
		弥生時代末期	竪穴建物	土器	
		古墳時代 中期～後期	竪穴建物・掘立柱建物・大溝・土坑など	土師器・須恵器・韓式系軟質土器・木製品・石製模造品	
		奈良時代 ～平安時代	竪穴建物・掘立柱建物・船着場・土坑など	土師器・須恵器・土錘・製塩土器・瓦塔・緑釉陶器・灰釉陶器	
		鎌倉時代	竪穴建物・掘立柱建物・土坑墓など	灰釉系陶器・青磁・白磁・土師器・渥美産陶器・常滑産陶器	
		戦国時代～ 江戸時代初め	竪穴建物・掘立柱建物・大溝・井戸・土坑など	瀬戸美濃産陶器・土師器・木製品	

文書番号	発掘届出(10埋セ第140号 1998.5.15/11埋セ第87号 1999.4.2) 通知(10教文第61-18号 1998.6.8/11教文第61-17号 1999.5.6) 終了届・保管証・発見届(11埋セ第65・68号 1999.3.23/11埋セ第35・36号 2000.3.28) 鑑査結果通知(10教文第61-18号/11教文第61-17号)

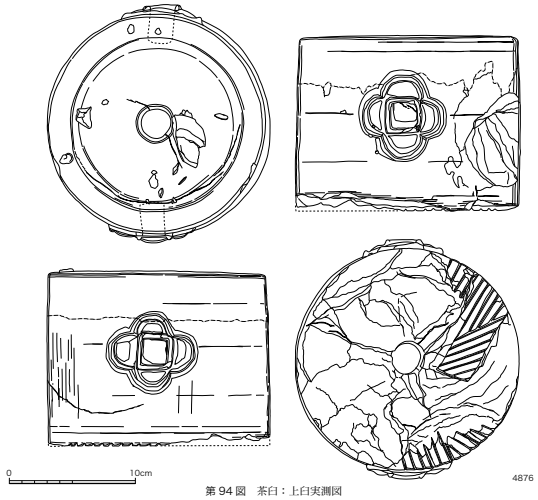
要約	水入遺跡は、矢作川西岸に面する中～低位段丘上に様々な時代の集落が展開する遺跡である。後期旧石器は流れ込みであったが付近に生活空間があったことが考えられる。縄紋時代草創期～早期には焼土坑群があり、同中期末に竪穴建物からなる集落が出現する。その後弥生時代末期に集落が展開するが、本格的な段丘面の開発が始まるのは古墳時代中期である。大屋敷地区に下流への灌漑を目的にしたと思われる全長200m以上の大溝が掘削され、大溝機能停止後も集落が展開、尾張産初期須恵器が多く搬入される。そして7世紀後半には下糟目地区も開発され、集落域が拡大する。古代集落は9世紀代に急激な縮小を経て、11世紀代にはほぼ廃絶する。次いで当該地は鎌倉時代に土坑墓からなる墓地として利用される。墓地は14世紀代には廃絶し、15世紀代からは再び集落地となる。特に16世紀代の大屋敷地区は大溝の最掘削や土塁構築、大型掘立柱建物が造られ、一種の川湊として機能していた可能性が考えられる。しかし矢作川の洪水が増え、18世紀代には当該地での集落経営は断絶する。

第109集　鷲窯跡

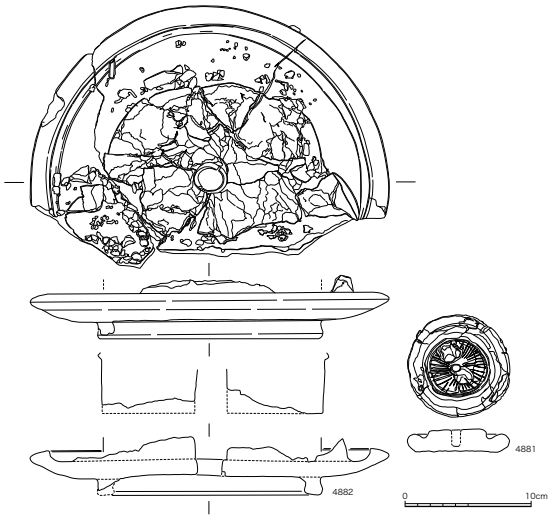
瀬戸市岩屋町・鳥原町に所在する。水野川の支流鳥原川沿いに南東奥に細長くのびた谷状地形の北側段丘に立地し、鳥原川と右岸段丘上に形成された狭小な沖積地を見下ろす標高200m～237mの南側斜面に立地している。瀬戸窯における14世紀後半から15世紀前半を代表する窯で、窯業遺跡のなかでも古瀬戸後期の編年資料の標識遺跡として知られている。

窯跡全体の80%を調査し、窯体1基、工房跡11ヶ所の遺構とほぼ完全に遺存した灰原等から膨大な量の遺物が出土した。窯体は1基であるが同じ場所に再掘削しており、大きく2時期あることが判明した。窯体に伴う工房跡は11ヶ所検出され、いずれも風化花崗岩を竪穴状に刳り貫いた遺構でその中の一つからは未焼成の5枚重ねの天目茶碗が13個出土した。

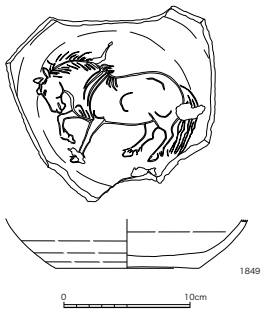
出土遺物については陶器片を口縁部、底部、胴部に分類しすべてカウントし、データーベースを作成した。P27のコンテナに3873箱、出土総点数773,955点である。鷲窯では山茶碗は焼成していないので、出土総点数から山茶碗の981点を引いた、772,974点が窯からの出土遺物となる。口縁部・底部計測法から、口縁部個体数は29,486個体、底部個体数は45,712個体を数える。総重量は22814.91kg、約22.8トンで、製品が632,515点、18078.15kg、焼台が114,739点、1435.85kg、匣鉢が25,722点、3300.91kgである。焼台の分析から、操業回数は312回、年４回操業で78年となる通年操業の窯である。　（小澤一弘）

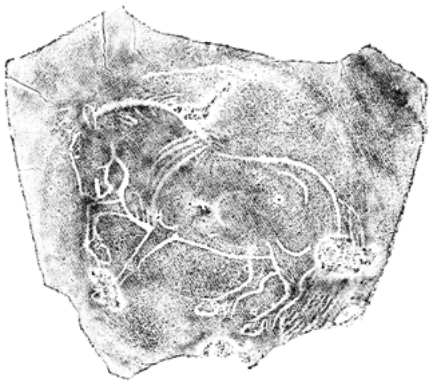


第 94 図　茶臼：上臼実測図



第 95 図　茶臼：下臼、ミニチュア下臼実測図




第 96 図　灰釉馬文皿実測図・拓影

報告書抄録

ふりがな	うぐいすかまあと
書名	鶯窯跡
副書名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
巻次	第109集
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	小澤一弘・伊藤秀紀・植田弥生・宇佐見守・荻野繁春・織部匡久・川添和暁・小村美代子・三澤壮太・辻本裕也・藤根　久・山形秀樹
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
うぐいすかまあと 鶯窯跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 いわやちょう　とりはらちょうちない 岩屋町・鳥原町地内	23204	415	35度 14分 22秒	137度 8分 30秒	1998.12.1 ～ 2001.3.30	1,400	東海環状自動車道建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鶯窯跡	古窯跡	室町	窯体、工房跡	古瀬戸の各器種	未焼成天目茶碗.人面陶板.灰釉馬文皿.茶臼

文書番号	発掘届出(10埋セ254,10.10.15/11埋セ78,7.4.1/13埋セ117,13.10.11) 発掘許可(10教文第61-26号,10.11.2/11教文第61-13号,11.4.19/13教生36-20号,13.11.5) 調査終了届(11埋セ63-1,11.3.25/12埋セ49-11,12.3.30/13埋セ187,14.3.29) 遺物発見届(11埋セ63-2,11.3.25/12埋セ48-11,12.4.7/13埋セ187,14.3.29) 保管証(11埋セ62-1,11.3.25/12埋セ48-11,12.4.7/13埋セ187,14.3.29) 鑑査結果通知(10教文61-26,11.5.18/11教文61-13,12.5.31/13教生36-20,14.8.6)
要約	窯体1基と工房跡11ヶ所、そして膨大な量の遺物が出土した。窯体は全長7m50cm最大幅約3m床面傾斜角度50度を測り、操業回数は312回と推定。工房跡はいずれも風化花崗岩を竪穴状に刳貫いた遺構で、その中の一つから未焼成の5枚重ねの天目茶碗が13個合計65点出土した。主な出土遺物として人面陶板、灰釉馬文皿、灰釉鉄彩七宝文八稜皿、茶臼、ミニチュア下臼等が出土した。出土遺物総点数773,955点のうち窯より出土は772,974点、口縁部個体数は29,486個体、底部個体数は45,712個体、出土遺物の総重量約22.8tである。

第122集　城山城跡

本書は、中馬街道を見下ろす足助市街地北辺に位置する16世紀代の山城跡の発掘調査報告書である。山城の縁辺部を発掘調査し、各種の防御施設や日常生活に関わる施設を確認した。

山城の西端を画する堀切　00A区では主郭に次ぐ規模の平場西端に対してつくられた堀切があった。

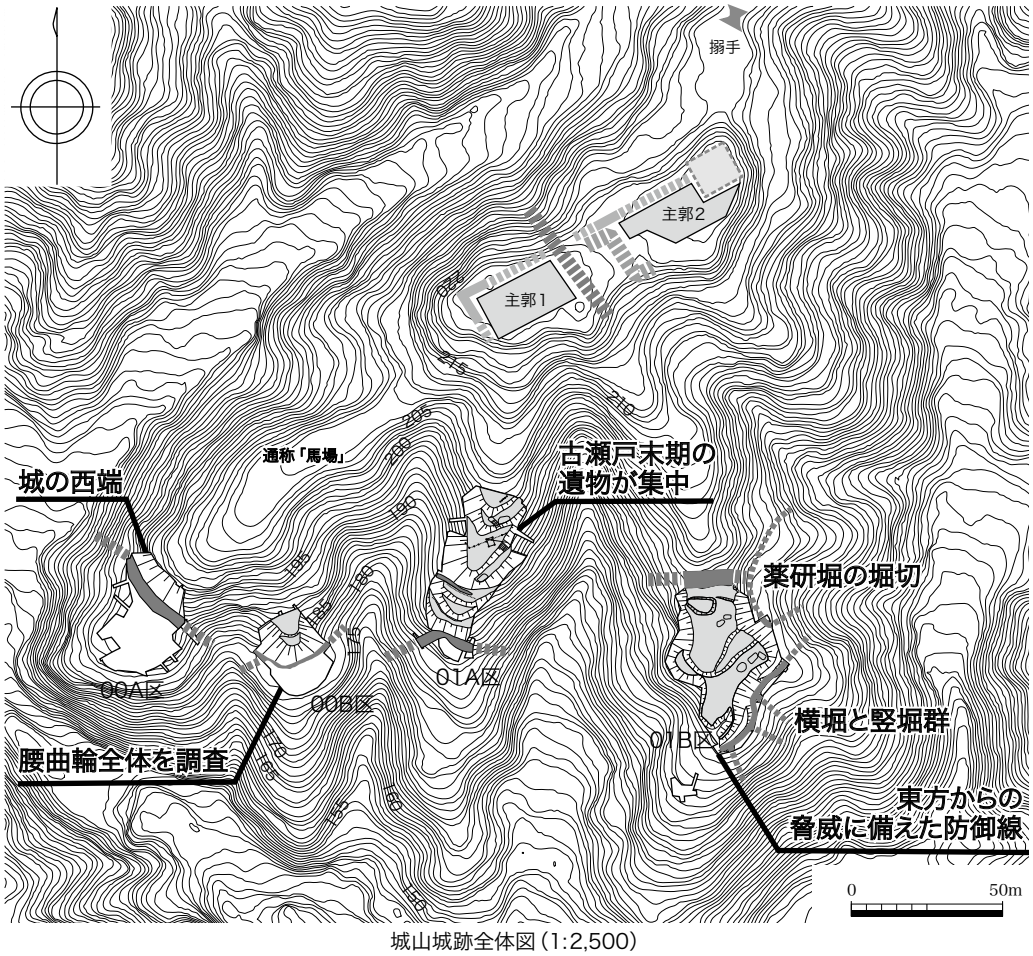
帯曲輪ほぼ全体を検出　00B区では上記平場に付属する帯曲輪を確認し、横堀と切岸に画された平場にて掘立柱建物を検出した。

古瀬戸末期段階の施設　01A区では古瀬戸末期段階の竪穴状施設を確認。擂鉢などの雑器が多く銅製錘が出土するなど、日常的な作業が実施されていた場所と推察された。

「大手道」と最前線の曲輪　01B区では全長約40mの横堀や薬研堀の堀切が確認された。平場群からは鉄鏃や小札が出土し、鉄鍛冶遺物もあったことから16世紀後半の軍事的緊張の中で使用された曲輪と考えられる。またこの平場群が整地される以前は堀割状の通路が主郭へと通じており、さながら「大手道」の様相を呈していた。

遺構の電気的探査　主郭や搦手については電気探査を実施し、その規模や現状ではうかがえない施設の存在などに言及した。

武田の三河侵攻との関わり　城山城の曲輪配置は、東方から街道を侵攻する軍に対する防御・威嚇を考慮したものであることがあきらかとなった。足助は元亀元（1572）年に武田氏の侵攻を受けているが、それに備えた守りであったとも考えられる。当該期にあっては本城たる真弓山城とそれに対面する城山城が足助防衛の要であったといえよう。　（永井邦仁）



城山城跡全体図（1:2,500）

報告書抄録

ふりがな	しろやまじょうあと
書名	城山城跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第122集
編著者名	永井邦仁・宮腰健司・鈴木正貴・蔭山誠一・平塚賢二郎・山形秀樹
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しろやまじょうあと 城山城跡	あいちけんとよたしあすけちょう 愛知県豊田市足助町 しろやま ひきじん 城山・引陣	23211	37110	35度 8分 17秒	137度 19分 20秒	1999.7.7 ～ 2002.3.27	4,400	国道153号 足助バイパス 建設に伴う 事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
城山城跡	城郭	戦国時代	掘割状通路・堀切・横堀・平場・切岸・竪穴状施設・掘立柱建物・礎石建物など	瀬戸美濃産陶器・中国産青磁・白磁・土師器・石製品・金属製品・鍛冶遺物など	戦国時代の山城縁辺部の防御施設
		明治～昭和	野壺	常滑産赤甕・ガラス製品・瀬戸美濃産陶器	19世紀後半～20世紀前半の耕作地

文書番号	発掘届出(11埋セ第109号 1995.5.14/12埋セ135-1号 2000.9.22/13埋セ76-1号 2001.8.28) 通知(11教文第61-18号 1999.6.3/12教生第216-29号 2001.10.18/13教生第36-9号 2001.9.4) 終了届・保管証・発見届(11埋セ第163・164号 1999.8.20/12埋セ228号 2001.3.30/13埋セ188号 2002.4.4) 鑑査結果通知(11教文第61-18号 1999.10.28/12教生第216-29号 2001.5.28/13教生第36-9号 2002.6.3)
要約	これまで縄張図以外の情報が全くなかった城山城跡について、その範囲を中心に新知見を得た。山城の範囲は考えられていたよりやや広く標高185m前後に外郭防御ラインが設定されていたことが判明した。また山城の築城時期は、主郭部分は不明であるが、出土遺物から古瀬戸末期を遡る可能性が高い。01B区では主郭へ上る堀割状通路の時期、それを埋めて平場を造成した時期に大別される。後者は大窯2期と判断され、横堀出土遺物から大窯4期には山城機能が停止したとみられる。山城廃絶後は明治時代に耕作地化が進み、多数の野壺が埋設される。加えて平安時代の須恵器は当該期に集落が斜面地に営まれた可能性を示している。

第132集　上品野遺跡

整理作業における成果は、以下の通りである。

後期旧石器時代の石器群については、石材の分類および接合作業を行った。その結果、出土地点との照合から、台形様石器に代表されるⅠ期の石器群とⅢ期の石器群が分離される可能性を指摘した。しかし、出土石器群の主体はⅠ期であるといえよう。

この遺跡では、現在瀬戸市域で唯一のドングリピットが4基検出されている。出土土器および放射性炭素年代測定の結果、弥生時代の所産である可能性が提示できた。堅果類は、シラガシ・イチイガシが目立った。

古墳時代初頭の住居跡から、土器の一括資料が出土した。同時期の遺物は、谷地形の中でもまとまって出土している。当地域においてこの時期は資料的に希薄である意味ばかりではなく、遺跡内での活動を考える上でも重要となろう。

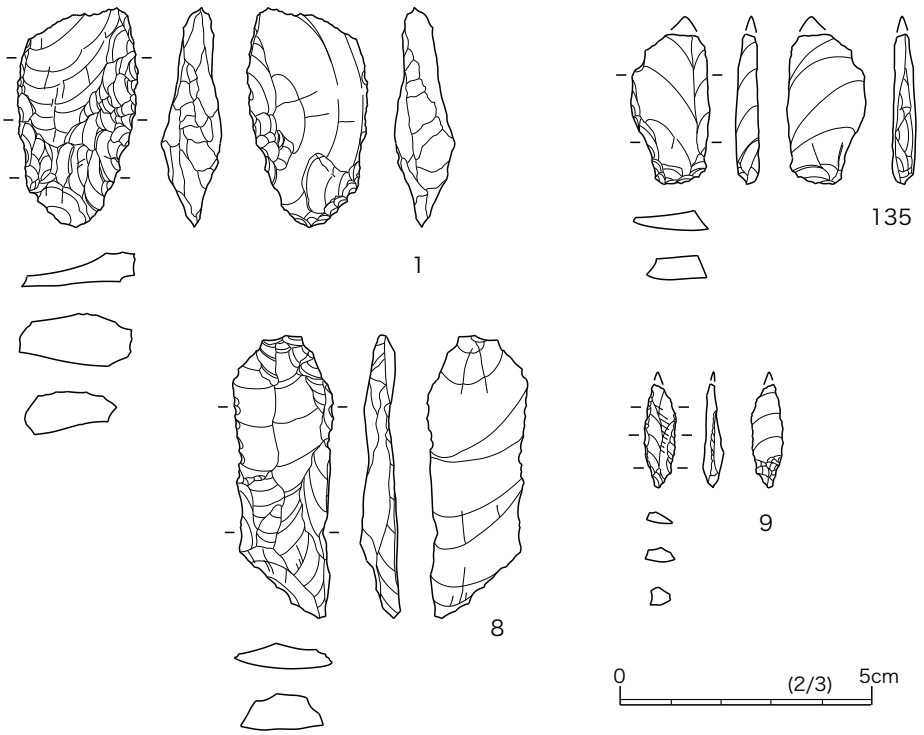
古代の集落跡が面的に見つかった。溝内などからの出土遺物は、虎渓山1号窯式を中心にまとまっているようである。

本文160頁、遺構図版12PL、写真図版14PL

CD-ROM集録データ

○報告書PDF版　　○遺構一覧表　　○遺物登録一覧表

○後期旧石器時代遺物展開データおよび三次元展開データ



上品野遺跡出土後期旧石器時代遺物

報告書抄録

ふりがな	かみしなのいせき
書名	上品野遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第132集
編著者名	川添和暁・鬼頭　剛・古澤　明・新山雅広・山形秀樹・植田弥生・藤根　久・森　勇一
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
かみしなのいせき 上品野遺跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 かみしなのちょう 上品野町	23204	03678	35度 15分 11秒	137度 8分 10秒	1996.11 ～ 1998.12	13,000	東海環状自動車道建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
上品野遺跡	集落	後期旧石器	石器製作跡など 集落跡	台形様石器・ナイフ形石器・掻器・削器・局部磨製石斧・剥片・石核	
		縄文～弥生	貯蔵穴	土器・石器・植物遺体	
		古墳	竪穴住居跡など	土器・石器・植物遺体	
		古代	土坑・ピット・溝	須恵器・灰釉陶器・緑釉陶器・土師器・フイゴの羽口・管状土錘など	灰釉陶器には墨書あり
		中世以降	土坑・ピット・溝	中世～戦国期陶器（山茶椀・古瀬戸・大窯）・砥石・木製品など	山茶椀には墨書あり

文書番号	発掘届出（8埋セ第199号 1996.10.11 /9埋セ第92号 1997.4.1 /10埋セ第100号 1998.4.1） 通知（8教文第61-24号 /9教文第61-13号 1997.5.13 /10教文第61-10号 1998.4.27） 終了届（9埋セ第69号 1997.3.31 /10埋セ第113号 1998.4.9 /11埋セ第10号 1999.2.1） 保管証・発見届（9埋セ第68号 1997.3.31 /10埋セ第112号 1998.4.9 /11埋セ第11号 1999.2.1） 鑑査結果通知（8教文第61-26号 /9教文第61-13号 /10教文第61-10号 1999.2.17）
要約	今回の調査で新たに見つかった時代の遺構・遺物として、後期旧石器時代初頭の石器群と、縄文時代晩期～弥生時代の貯蔵穴群がある。この石器群は、東海地域において、後期旧石器としては最古となる石器群であり、資料のまとまりなどからも今後の指標となると考えられる。 貯蔵穴（ドングリピット）については、水稲耕作導入後も広く堅果類利用が行われていたことを示す資料として、注目される。 今回の調査でも、古墳時代初頭・古代・中世～戦国期の集落跡が見つかった。前回の調査を追認するばかりではなく、各時代、当地域における集落跡としては、良好な資料を提示しているといえよう。

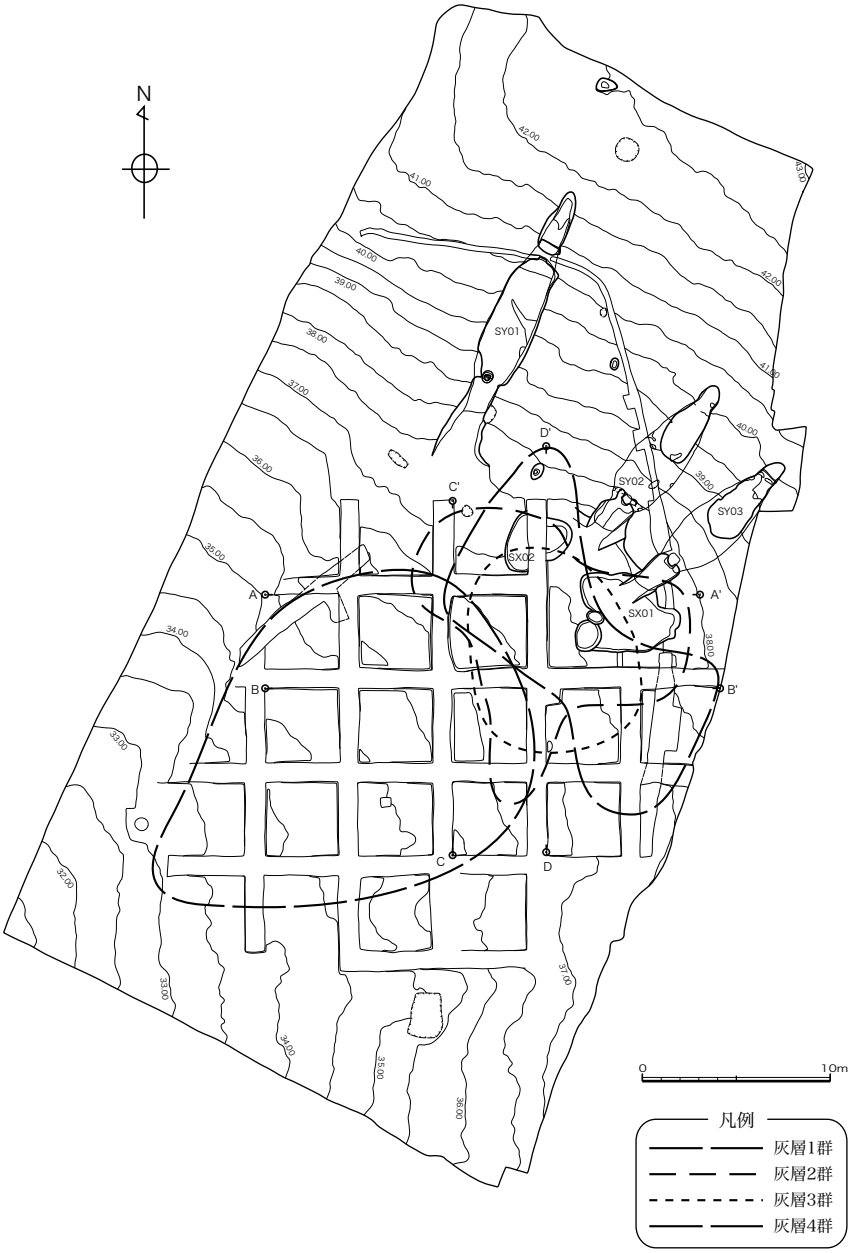
第133集　NA311号窯

NA311号窯は名古屋市緑区大高町高根に所在し、猿投窯の鳴海地区有松支群に属している。発掘調査は国道302号線建設を理由とし、調査面積は1800㎡、期間は平成11(1999)年5月～9月である。

調査の結果、13世紀前半の窯体３基(SY01～03)と、これに伴う灰原や整地層、前庭部土坑のほか、土坑3基を検出した。窯体の残存状況は良好で、床面はSY01がほぼ残存SY02・03は煙道部上端を除き残存する。規模は、SY01が全長12.94mで焼成室の最大幅は2.24m、SY02が残存長9.52mで焼成室の最大幅は2.90m、SY03が残存長は 9.96m。焼成室の最大幅は2.72mである。

窯体は断ち割り調査の結果、SY02・03に床面下施設が確認できた。SY03は床面を掘削した後、土砂を充填してその上に炭を敷き詰めるものだが、SY02はさらに底面に焼成不良の椀を伏せ並べている。

(池本正明)



灰層分布図

報告書抄録

ふりがな	NA311ごうよう
書名	NA311号窯
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第133集
編著者名	池本正明・藤根　久・Zauri Lomtatize・植田弥生・井上　巖・神谷巳佳
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
NA311ごうよう NA311号窯	あいちけんなごやしみどりく 愛知県名古屋市緑区 おおだかちょうたかね 大高町高根	23114	14117	35度 3分 3秒	136度 57分 56秒	199902・ 199905 ～ 199909	1,800	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
NA311号窯	古窯跡	鎌倉時代	窯体3基 灰原	灰釉系陶器	窯体は残存状況が良好。うち1基は椀を伏せ並べた床面下施設を確認。

文書番号	発掘届出(11埋セ第16号 1999.1.28 /11埋セ第92号 1999.4.15) 通知(11教文第61-1号 1999.2.1 /11教文第61-41号) 終了届(11埋セ第49号 1999.3.11 /11埋セ第190号 1999.10.18) 保管証・発見届(11埋セ第47号 1999.3.11 /11埋セ第191号 1999.11.8) 鑑査結果通知(11教文第61-1号 /11教文第61-41号)

要約	本窯は、猿投窯鳴海地区有松支群に属し、椀・小皿にほぼ限定された生産を行っている。認知できた窯体は3基で、いずれも13世紀前半に属する。3基とも保存状態が良好で、床面はほぼ完全に残存し、天井部も一部分ではあるが残されている。また、灰原も西側の一部が流出するのみで、ほぼ完全に残されている。当該期の窯体構造・生産規模を知り得る好例と考えられる。

第134集　凩山Ｃ窯跡・惣作･鐘場遺跡Ⅰ

（1）凩山Ｃ窯跡は、灰釉系陶器（いわゆる「山茶椀」）を専焼する窖窯である。出土遺物の型式から、藤澤編年尾張型第７型式に相当し、13世紀半ばから後半に位置づけられる。出土した資料は、灰釉系陶器の椀と皿が大半を占め、陶丸も併焼している。陶丸は、焼成済みの椀を転用した匣鉢のほかに、施釉陶器（いわゆる「古瀬戸」）の瓶類を再利用した匣鉢もある。

窯体は2基確認できた。2基は先後関係にあり、SY02→SY01の順に構築されている。

焼成回数について。灰層1つに対して1回の操業とすると、凩山Ｃ窯跡の操業回数は合計5回。築窯排土と灰層の堆積、2つの窯が同時操業ではないことから、以下の操業順序を想定する。SY02に対応する灰層は東灰原５層のみなので、SY02は1回。その後、SY02は廃窯となり、SY01を構築。東灰原の灰層である東灰原2層と西灰原の灰層である西灰原10層→8層→2層の順に堆積していることから、SY01は合計4回操業したことになる。

出土した椀皿類は尾張第７型式の特徴を大きく逸脱することはない。むしろ確実にこの型式で納まる。今回、凩山Ｃ窯跡の製品から抽出した事例は、「高台の輪トチ化」傾向のほか、口縁部に残存する粘土紐接合痕跡、椀内面の摩耗痕と「陶器片調整具」の使用がある。

（2）本センターは平成12～16年にかけて惣作・鐘場遺跡を調査した。総調査面積は30,775㎡である。今回は東海環状自動車道に関連する調査区2,125㎡について報告する。

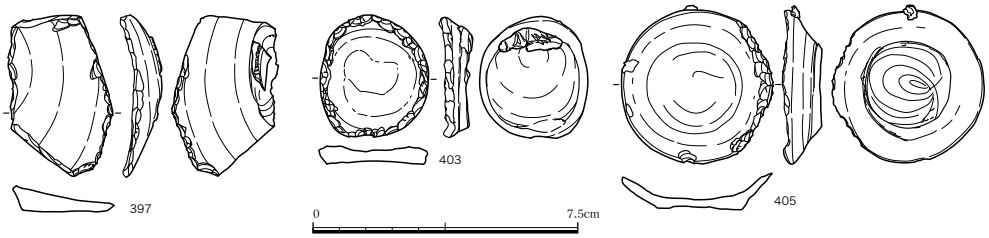
本遺跡は旧石器時代から近世にかけての複合遺跡である。主体となるのは古墳時代と中世後半の集落である。調査区は遺跡の南端に位置し、遺跡の周縁に相当する。検出された主な遺構遺物は縄文時代後期～晩期前葉及び中世初期の時期に属する。縄文時代については竪穴住居に付属するものと考えられる土器埋設遺構と倒木に伴う遺物包含層が検出された。また、中世初期の掘立柱建物2棟と13～14世紀の遺物包含層などが確認された。遺物は縄文土器、石器、中世前半の山茶椀などが出土した。　（永井宏幸）



惣作・鐘場遺跡出土の土器埋設遺構



凩山Ｃ窯跡出土陶器片調整具の使用法復原案



凩山Ｃ窯跡出土陶器片調整具実測図

報告書抄録

ふりがな	たこやまCかまあと・そうさくかねばいせき いち
書名	凧山C窯跡・惣作･鐘場遺跡I
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第134集
編著者名	永井宏幸・酒井俊彦・川添和暁・植田弥生・山形秀樹
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
たこやまCかまあと 凧山C窯跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 たこやまちょう 凧山町	23204	なし	35度 13分 20秒	135度 8分 11秒	20020408 ～ 20020704	700	東海環状自動車道建設に伴う事前調査
そうさくかねば 惣作・鐘場 いせき 遺跡	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 そうさくちょうかねばちょう 惣作町・鐘場町	23204	03792	35度 12分 47秒	135度 7分 47秒	20021020 ～ 20021210	2,125	東海環状自動車道建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
凧山C窯跡	集落 集落 生産遺跡	縄文時代 古代 中世	土坑 土坑 窯体・土坑・灰原	縄文土器・石器 須恵器 灰釉系陶器・皿	窯築造以前の遺構を確認した。 窯体と灰原がほぼ完掘できた。
惣作・鐘場遺跡	集落	縄文時代 中世	土器埋設遺構 掘立柱建物	縄文土器 山茶椀	竪穴住居の施設の可能性がある。 同時存在の掘立柱建物2棟を検出する。

文書番号 (凧山C窯跡)	発掘届出（13埋セ第175号 2002.3.1） 通知（13教生第36-28号 2002.3.14） 終了届・保管証・発見届（14埋セ第46・47号 2002.6.25） 鑑査結果通知（13教生第36-29号 2002.8.6）
文書番号 (惣作・鐘場遺跡)	発掘届出（13埋セ第174-1号 2002.2.25） 通知（13教生第36-28号 2002.3.14） 終了届・保管証・発見届（14埋セ第121・123・124号 2002.12.10） 鑑査結果通知（14教生第72-8号 2002.12.17）

要約	**凧山C窯跡**：13世紀第3四半世紀に比定される中世窯を2基、および付属施設を調査した。本窯は灰釉系陶器椀・皿の専焼である。中世窯の分布を詳細に見ると、赤津地区の最古段階で、その後この地区に展開する中世窯の先駆的操業として注目できる。 **惣作・鐘場遺跡**：縄文時代後期と考えられる土器埋設遺構を2基検出する。竪穴住居に付随するものと考えられ、集落が展開していたと推定される。また、中世の掘立柱建物2棟を確認する。調査区全体に柱穴と推定される小土坑が検出され、数棟から構成される集落が形成されていたことを確認する。

第135集　瓶子窯跡

瓶子窯跡は瀬戸市凧山町に所在し、現在も窯業の中心的な地域である「赤津」集落から少し離れた丘陵地に立地する。瀬戸市埋蔵文化財センター調査により、17世紀半ば～後半にかけて操業した2基の窯体と作業場跡が確認されている。

今回の調査地点は窯体の前方に広がる物原の調査であり、物原末端は谷下の自然流路に達していた。出土した製品および窯道具類はコンテナ840箱にのぼり、そのほぼ半量は擂鉢、銭甕であった。

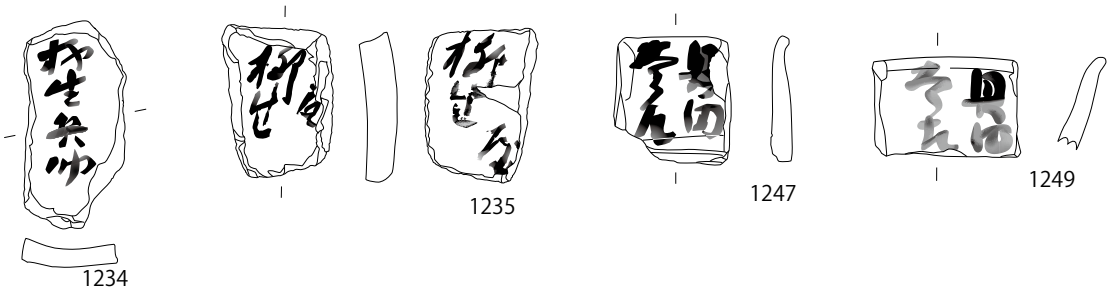
(1) 擂鉢の形式より、連房式登窯第3小期～第5小期（藤澤編年）と比定でき、2基の操業期間は17世紀半ば～後半の時期と推定される。

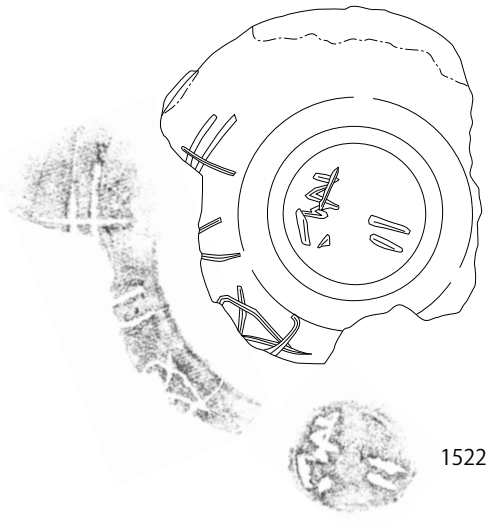
(2) 擂鉢、徳利、銭甕をはじめとする調理具、貯蔵具など日常品の量産と、各種碗や茶入など茶陶の注文生産が同地点で行われていた。

(3) 窯道具には瀬戸美濃地域では瓶子窯跡独自となる技法がみられ、それらは茶入をはじめとする茶陶の制作に関連するものと思われる。

(4) 注文生産品のうち特に茶入に関して、注文者を示すと思われる「付け札」が検出された。しかも、その人名には尾張藩剣術指南役、柳生兵助（連也）を含む、一部の尾張藩士が含まれることが判明した。

(5) 茶入を大量に焼成し、特殊な窯体構造であったこと等より、尾張藩の御用をつとめる特別な窯である、とこれまでにも認識されてきた。今回の調査成果はこれを裏付けるものであり、さらに注文生産の実態についてもその一端がわかる貴重な資料となった。　（武部真木）





人名の書かれた陶片・窯印のある陶片（1：2）



廃棄された茶入

報告書抄録

ふりがな	へいじかまあと
書名	瓶子窯跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第135集
編著者名	武部真木・森　勇一・鵜飼雅弘・堀木真美子・鬼頭　剛
編集機関	財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2006年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいじかま 瓶子窯	あいちけんせとし 愛知県瀬戸市 たこやまちょう 凧山町	23204	03504	35度 13分 18秒	137度 8分 4秒	2003.4.1 ～ 2003.6.30	1,300	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
瓶子窯跡	古窯跡	江戸時代 前期	物原・自然流路	陶器・窯道具	茶陶(茶入)の注文生産に関する資料

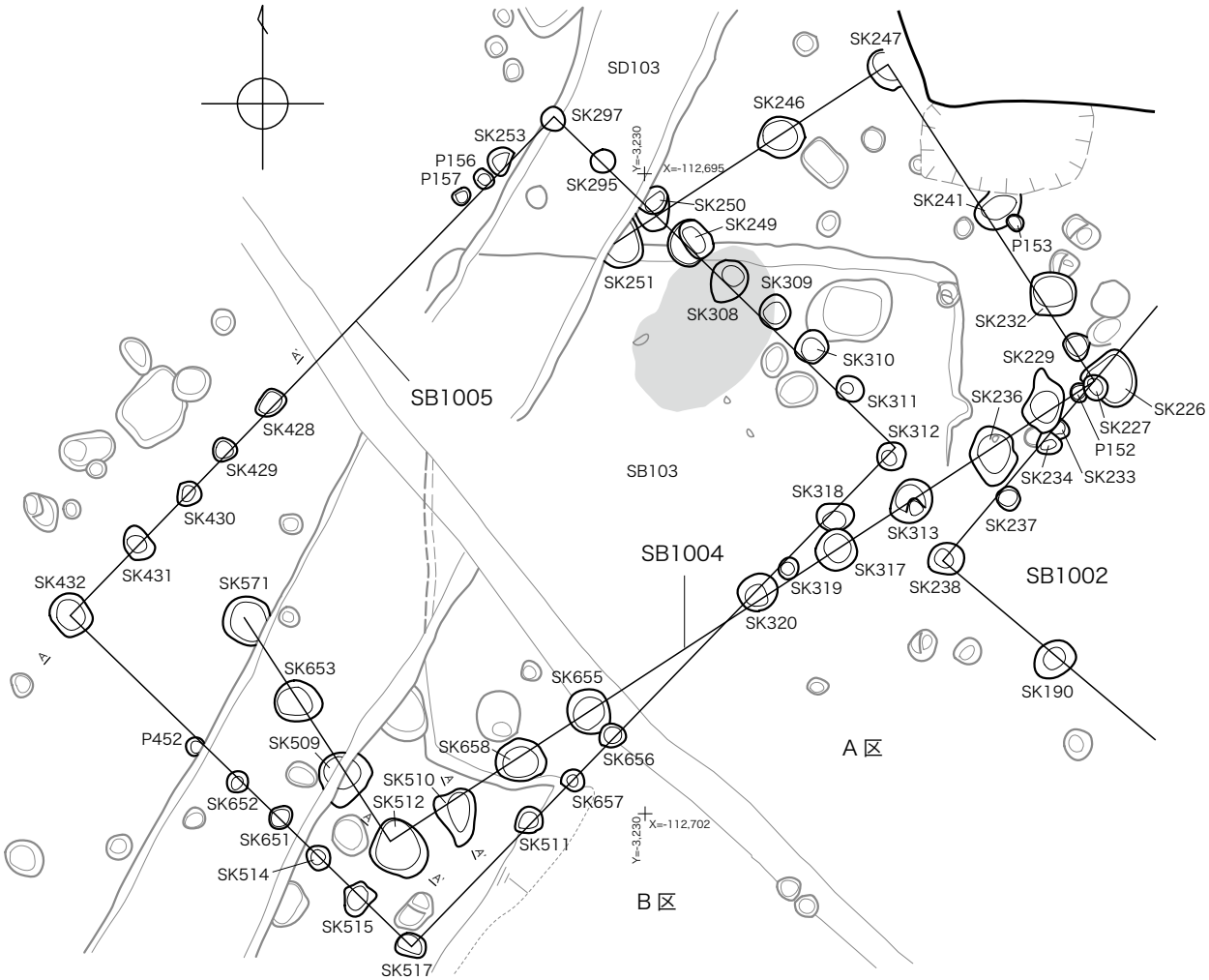
文書番号	発掘届出(14埋セ第155号 2003.3.1) 通知(14教生第72-13号 2003.3.7) 終了届・保管証・発見届(15埋セ第29号 2003.7.2)

要約	連房式登窯、大窯・連房連結窯の2基の窯体の前方に広がる物原の調査。17世紀半ば～後半に操業し、擂鉢、銭甕など日常品を量産する一方で、茶入や各種碗など茶陶の注文生産を行っていた。注文者を示すと思われる「付け札」が出土した。

第136集　小針遺跡

小針遺跡は、岡崎市小針町地内に位置する。調査地点は、碧海台地の東側縁辺部にあたり、矢作川右岸と台地の間に形成された沖積平野を、東に臨む。 調査区は、県道名古屋岡崎線バイパス建設予定地を3分割して、A～C区として設定した。調査期間は5ヶ月強を要し、平成15年7月15日よりA区の表土剥ぎを実施し、12月22日にC区の埋め戻し作業を終了した。

出土遺物の整理作業は、調査中に洗浄・注記作業を行い、引き続き平成16年4月より、報告書作成までの作業を行った。その結果、小針遺跡は継続的ではないが、縄文時代の中～晩期、弥生時代後期、古墳時代、古代、中世、戦国時代の複合遺跡であることが確認できた。その中でも、6～8世紀代に継続して営まれたと思われる集落跡は、この時期の西三河地域では最大級である。本調査地点では、竪穴住居24、掘立柱建物5などが、これまでの調査成果に付け加えられた。　(松田 訓)



SB105・1004・1005平面図(1/80)

報告書抄録

ふりがな	こばりいせき
書名	小針遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第136集
編著者名	松田　訓・鬼頭　剛・山形秀樹（株式会社パレオ・ラボ）
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
こばりいせき 小針遺跡	あいちけんおかざきし 愛知県岡崎市 こばりちょういっしき 小針町一シキ	23190	51280	35度 59分 2秒	137度 7分 53秒	2003.7.15 ～ 2003.12.12	2,100	県道名古屋岡崎線建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
小針遺跡	集落	縄文～戦国	竪穴住居 掘立柱建物	須恵・土師器 戦国時代土器	小針遺跡の集落東端確認

文書番号	発掘届出（15埋セ第12号,15.5.16） 通知（15教文第72-5号 ,15.6.16） 終了届・保管証・発見届（15埋セ第90号,15.12.22） 鑑査結果通知（16教生第99号 ,16.3.26）

要約	調査の結果、小針遺跡は継続的ではないが、縄文時代の中～晩期、弥生時代後期、古墳時代、古代、中世、戦国時代の複合遺跡であることが確認できた。その中でも、6～8世紀代に継続して営まれたと思われる集落跡は、この時期の西三河地域では最大級である。 本調査地点では、竪穴住居24、掘立柱建物5などが、これまでの調査成果に付け加えられた。これらの遺構は、先の岡崎市教育委員会による調査成果に加えると、竪穴住居総数298、掘立柱建物総数90となる。この数は、集落全体のごく一部にあたると思われる。調査結果は、近隣の北野廃寺との関係も含めて、居住した集団の性格を検討する上で良好な資料提示といえよう。

第137集　奥町Ｆ古窯群

Ⅰ　経過

知多半島横断道路拡張工事に伴う立会調査として実施。調査期間は平成15年４月。



壺

Ⅱ　環境

本窯は知多古窯が展開する愛知県知多半島中央部東海岸の半田市内に位置する。所在地は愛知県半田市奥町。

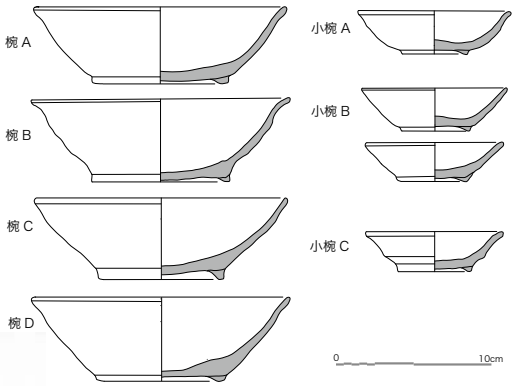
Ⅲ　調査

断面に残る堆積層とその周辺の調査を実施。遺構は存在せず、灰層の広がりを確認。

出土遺物はI層から甕・壺類が、II層から椀・小椀類が多量に発見された。器種は椀・小椀・甕・広口壺・三筋壺・短頸壺・鉢・羽釜である。(総破片数11475点)



作業風景



椀分類

Ⅳ　総括

奥町Ｆ古窯群は、主に椀類と甕・壺類を別々に焼成した複数の窯体で構成されているものと推測できる。赤羽・中野編年1b型式新相から2型式を中心とする資料(I層が甕・壺類を中心とした2型式、II層が椀類を中心とした1b型式新相)が主体を占め、12世紀中頃の操業と考えたい。

(赤塚次郎)





融着資料

報告書抄録

ふりがな	おくちょうえふこようぐん
書名	奥町F古窯群
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第137集
編著者名	赤塚次郎
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
おくちょうえふこようぐん 奥町F古窯群	あいちけんはんだし 愛知県半田市 おくちょう 奥町	23205	–	34度 54分 29秒	136度 52分 47秒	2003.0403 ～ 2003.0410	–	知多半島横断道路拡張工事に伴う発掘調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
奥町F古窯群	古窯跡	室町時代 末期	堆積層(灰層)	椀・小椀・甕・広口壺・三筋壺・短頸壺・羽釜・鉢	

要約	本窯の調査は、断面観察と灰層を中心とした部分的な調査に留まり、椀類を中心としたII層と甕・壺類を中心としたI層が確認できた。その他に三筋壺・短頸壺・羽釜・鉢などが出土している。主に椀と甕・壺類を別々に焼成した複数の窯体で構成されているものと推測できる。赤羽・中野編年1b型式新相から2型式を中心とする資料が主体を占め、12世紀中頃の操業と考えられる。

第153集　桜鐘古窯群

桜鐘古窯群は知多市佐布里字奥茂長田に所在する。調査区は北東に向けて伸びる小尾根の頂部付近となる。発掘調査は愛知県企業庁愛知用水水道南部事務所による給水塔建設を理由とし、面積は536㎡、調査期間は平成16(2004) 年４月～６月である。

調査の結果、7基の窯体を確認している。窯体構造で特徴的となるのは、A区SY02の焼成室内に設置された窯内柱がある。これはA区SY01、B区SY05の床部でもその痕跡が確認でき、ここでも設置されていた可能性が高い。また、分焔柱を焼成室側に伸ばす改修が、A区SY01・02、B区SY01・03で確認できた。

出土遺物は、甕・壺・鉢を主体として少量の椀・小皿が加わるといった状況となっている。これらの特徴を赤羽・中野編年 (中野　1994) に当てはめると、6a～6b型式期となる。甕・壺などに確認できる押印文の原体は77種類ある。この中で両翼を円形に図案化した鳥の姿を刻む個性的なものが含まれている。意匠面から注目できるだけでなく、流通の具体的事例を比較的容易に確認できる可能性を持つ。　　(池本正明)



A区全景



B区全景



鳥押印文実測図 (1:1)

報告書抄録

ふりがな	さくらがねこようぐん
書名	桜鐘古窯群
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第153集
編著者名	池本正明・神谷巳佳・植田弥生・井上　巖・森　勇一
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さくらがねこようぐん 桜鐘古窯群	あいちけんちたしそうり 愛知県知多市佐布里 あざおくもちょうだ 字奥茂長田	23224	45305	36度 01分 20秒	137度 12分 16秒	200404 ～ 200406	536	工業用水道 事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
桜鐘古窯群	古窯群	鎌倉時代	窯体7基	中世陶器	窯内柱を持つ窯体 鳥をモチーフとした 押印文

文書番号	発掘届出（15埋セ第123号 2004.3.16） 通知（15教生第72-14号 2004.3.23） 終了届（16埋セ第35号 2004.7.7） 保管証・発見届（16埋セ第35号 2004.7.7） 鑑査結果通知（16教生第825号 2004.8.4）
要約	本窯は知多半島古窯群に属する。確認できた窯体は5基だが、立会調査でも3基の窯体もしくはその痕跡を確認している。出土遺物は壺・甕・鉢が主体となり、椀・皿がこれに加わる。時期は13世紀後半（赤羽・中野編年6a・6b型式期）が中心となる。壺・甕の押印文は多様で、中でも鳥をモチーフとした資料は注目できる。

報告書抄録

ふりがな	きよすじょうかまちいせき 9
書名	清洲城下町遺跡 IX
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第131集
編著者名	早野浩二
編集機関	財団法人愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2005年8月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
きよすじょうかまち 清洲城下町 いせき 遺跡	あいちけんかすがいぐん 愛知県西春日井郡 きよすちょうこじょうほか 清洲町古城他	23346	21002	35度 2分 58秒	136度 6分 57秒	1998.09.17 ～ 1999.03.02	2,700	県道西市場助七線建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
清洲城下町遺跡	城館	戦国時代	溝、土坑、 自然流路など	縄文土器 土師器・須恵器・灰釉陶器 瀬戸美濃陶器・常滑陶器 土師器・中国陶磁 瓦・石製品 金属製品および その他関連遺物など	清須城下町成立前後の方形区画 清須城下町に関連する遺構群 古瀬戸狛犬の出土

文書番号	発掘届出（10埋セ第192号・1998.7.29） 通知（10教文第61-19号・1998.8.10） 終了届・保管証・発見届（10埋セ・1999.3.2） 鑑査結果通知（10教文第61-19号・1999.3.31）

要約	清洲城下町遺跡は、標高3m前後の低地帯に立地する戦国時代の城館である。本調査区においては、清須城下町成立前後の大規模な区画溝を検出した。区画溝の下層からは、12～15世紀の土器・陶磁器などが豊富に出土した。これらの遺物には古瀬戸鉄釉狛犬も含まれていた。区画溝の上層とその上位に掘削された溝群、周辺の土坑からは、16～17世紀の土器・陶磁器、瓦などが出土した。これらの遺物には、志野、黄瀬戸製品、瀬戸黒茶碗などの優品も多く含まれる。

報告書抄録

ふりがな	しまざきいせき・でんぽうじほんごういせき・なかのごうきたいせき
書名	島崎遺跡・伝法寺本郷遺跡・中之郷北遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第139集
編著者名	宮腰健司・鵜飼雅弘・早野浩二・山形秀樹・植田弥生・馬場健司・辻本裕也・藤根 久・長友純子・小村美代子・森 勇一他
編集機関	財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県海部郡弥富町大字前ヶ須新田字野方802-24　TEL 0567(67)4161
発行年月日	西暦2006年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
しまざきいせき 島崎遺跡	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 しまざき 島崎	23203	02107	35度 17分 13秒	136度 49分 46秒	20010113 ～ 20010327	2,000	県道高速清洲一宮線建設
でんぽうじほんごういせき 伝法寺本郷遺跡	あいちけんいちのみやし 愛知県一宮市 たんようちょうでんぽうじ 丹陽町伝法寺	23203	02108	35度 15分 35秒	136度 50分 36秒	20010409～20010530 20010827～20010919	1,600	
なかのごうきたいせき 中之郷北遺跡	あいちけんにしかすがいぐん 愛知県西春日井郡 にしはるちょうなかのごう 西春町中之郷	23344	19016	35度 14分 37秒	136度 50分 52秒	20011003 ～ 20020214	2,400	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
島崎遺跡	集落	鎌倉～室町 江戸	溝・土坑・井戸 水田	山茶碗・常滑陶器 瀬戸美濃陶磁器 土師器皿・土師器鍋 銭貨・刀子	
伝法寺本郷遺跡	集落	古墳 奈良～平安 鎌倉～室町 江戸	水田 河川・竪穴住居 溝 畠・水田	土師器 土師器・須恵器 山茶碗・古瀬戸・常滑陶器 瀬戸美濃陶器	奈良時代の集落
中之郷北遺跡	集落	古墳 飛鳥～奈良 鎌倉～室町 江戸	溝・竪穴住居 河川・竪穴住居 溝 畠・水田	土師器・須恵器・鉄製品 土師器・須恵器 山茶碗・古瀬戸・常滑陶器 瀬戸美濃陶器	土師器の一括資料 古墳～奈良時代の金属製品製作関連遺物の出土

文書番号 （島崎遺跡）	発掘届出（12埋セ第173号 12.12.5）　通知（12教生第216-40号 12.12.25） 終了届・保管証・発見届（12埋セ第220号 13.3.28）　鑑査結果通知（12教生第216-40号 13.5.28）
文書番号 （中之郷北遺跡）	発掘届出（12埋セ第208-14号 13.3.16）　通知（12教生第216-46号 13.3.28） 終了届・保管証・発見届（13埋セ第101号 13.9.27）　鑑査結果通知（13教生第216-46号 13.10.11）
文書番号 （伝法寺本郷遺跡）	発掘届出（13埋セ第72号 13.8.24）　通知（13教生第36-10号 13.9.13） 終了届・保管証・発見届（13埋セ第169号 14.2.28）　鑑査結果通知（13教生第36-10号 14.3.27）

要約	島崎遺跡は、鎌倉～室町時代には、遺跡中央部が集落域となり、北東―南西に延びる微高地地形に沿うような、溝・井戸・方形土坑が検出されている。 伝法寺本郷遺跡は、古墳時代、奈良～平安時代、鎌倉～室町時代、江戸時代の複合遺跡である。発掘調査の結果、各時代を通じた土地利用の変遷が明らかとなった。 中之郷北遺跡は、古墳時代、奈良～平安時代、鎌倉～室町時代、江戸時代の複合遺跡である。発掘調査では各時代の遺構と遺物が層序ごとに連続して検出された。発掘調査の成果は、当地域における地形発達史、土地利用史に資する重要な知見である。 なお、立会調査によって発見された宇福寺遺跡においては、古墳時代の土器を大量に採集した。